

6月18日 中保育所 公開保育を実施しました
 日本保育学会 課題研究委員会の視察も受けました

今年度、最初の公開保育を中保育所で実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただきました。保育園・幼稚園・小学校から50名の参加がありました。北野先生のご指導を受けての公開も3年目を迎え、保育者が、子どもを主体とした保育を展開しようとしている様子やそのための環境、子どもとの関わりを見ていただきました。まだまだ、学びの途中ですが、少しずつ変化してきています。

また、日本保育学会課題研究委員会より、「市が研究者と連携して研修の機会を提供し、保育の質の向上を目指し、公私の枠を超えて園同士が学び合うことは同僚性の拡大でもあり、今後の質の向上に向けた取り組みのモデルになりうると考えており、研修事業を視察し、実施方法、効果、課題等を研究する」ことを目的として、委員6名が視察に来られました。

公開保育を見学していただき、カンファレンスにも貴重なご意見をいただき、いつも以上に学びが多かったのではないのでしょうか。

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	倉梯幼稚園
さくら保育園	橘幼稚園
相愛保育園	舞鶴幼稚園
平保育園	
タンポポハウス	吉原小学校
なかずじ保育園	
東山保育園	
ルンビニ保育園	
八雲保育園	
やまもも保育園	
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

年齢に応じた関わりや環境に工夫が見られた。

日案における「評価の観点」をより具体的に書くことで援助の方法も見えてくる。

～北野先生のコメントより～

<畑プロジェクト>

昨年から続いている畑プロジェクト…今年は5歳児だけでなく4歳、3歳児の子どもたちも西川さんや荻野さん（地域の支援者の方）から、野菜作りを教えてもらっています。

自分たちから、西川さんを見つけると聞きたかったことを聞きに行き、話しかける様子に日々、つながっている様子が見られました。

また、4歳児がどろだんごづくりから、西川さんの畑の斜面にある赤土に気付き、おだんごづくりに発展している様子も見られました。子どもたちは、赤土の特徴を感じながら、「落としても割れない」ことを試したり、「なぜ、こわれないか？」を考えようとする姿も見られました。



<環境の工夫>

北野先生より…

◎全体的な広さと人数規模とが合っている。

◎広すぎても遊びはつながらない。色水遊びの場所や道具の配置等もよかった。机があることで子ども同士が見える、つながりやすい。

◎図鑑を見る場所が大型遊具の下で落ち着き、ちょうどよい空間になっていた。



<砂場>

砂場では、5歳児がといやシートを使って水を流し、ためようと数人がかたまつて遊んでいました。といの角度や高さ、つなげ方を工夫し合い、話し合う姿が見られま



した。そのあと…5歳児（黄色帽子）の様子を見ていたのか、3歳児（青帽子）が同じように水を流したり、スコップを持って砂場で遊ぶ様子が見られました。

2歳児の砂場遊びでは、保育士が見本になって道具を使って山づくりをしたり、泥の感触を手で確かめたり、いっしょに楽しむ姿がありました。



<振り返り>

北野先生より…

◎振り返りの場所や内容は保育士のねらいや意図が大事。何を伝えるか？何を広げるのか？

◎3歳児は、部屋に戻ってからではなく、その場面に近い場所でする方がリアリティーがあり、わかりやすい。戸外で臨場感があった。

◎4、5歳児は、室内など、集中して聞ける環境の方がよい。

◎4歳児は話がよく聞いており、集中力があつた。

◎どの場所でするかいろいろ試してみると良い。



公開保育カンファレンス

子どもの姿が評価基準である

～北野先生カンファレンスより～



<北野先生より>

◎保育者が保育を語れるようになったことが大きく変化した点である。

<環境>

◎ねらいを達成するための環境とは?遊びと遊びが繋がっていく距離になっていること、動線が確保されていること、異年齢児が交流できること(5歳児がモデル)である。3歳児が5歳児とよく交わっていた。

<各年齢>

◎2歳児の読み聞かせは、よく見ており、先生大好き!の雰囲気があった。

◎2歳児は、感情の伴った体験と同時に言葉を習得する。その時に保育者が同じ感情になり、体験と言葉をセットで話す。保育者の言葉の量が子どもの語彙数を左右する。

◎3歳児の「見てて、見てて」の感情の共有がなければ次へ進めない。具体物・場面でつなぐ。

4, 5歳児は想像させながら、つなぐ。

◎子どもの姿が評価基準である。

ドキュメンテーションや公開のための見せるための保育になってはならない。子どもの一番輝いている場面を切り取り、選択していくことが保育の専門性でもある。一人ひとりの子どもが何をしがっているのか?どんな興味があるのか?丁寧に見ていく必要がある。

～日本保育学会 課題研究委員会委員より～



◎保育者の意図性が強いと子どもの主体性(思い)が出にくくなってしまいます。逆に意図性が弱いと環境が乏しくなってしまいます。バランスが難しい。

◎保育士が息をのみ、注意したい気持ちを抑える姿があり、意図を減らす努力をされていた。

◎ドキュメンテーションや公開のための見せるための保育になってはならない。

また、写真を並べるだけでなくでもない。子どもの活動だけが、重視されるものでもない。

◎遊びの発展と流れを保育者がどのようにとらえているかが大切。

◎発達や遊びの見通しがあれば、穏やかに関われる。そのことを家庭にももっと発信

してほしい。

◎プロジェクトがどう生まれていくのか?テーマはだれが選ぶのか?気づきをしながら続けていくのはだれなのか?日常生活の中から出てくるものをどう選んでテーマ(プロジェクト)にしていくかをしっかりと保育者が持っていなければならない。

◎ドキュメンテーションでは、何もかも入れ込むのではなく、子どもの一番輝いている場面をどのように切り取り、選んでいくか。それが、保育の専門性であると同時に保護者に伝えていくための工夫になる。

◎道具を使いやすいように、出しやすいように、しまいやすいようにすることはわかりやすく保育をすることにつながる。

◎発達年齢に合わせた環境づくりが必要。

◎ドキュメンテーションは、子どもが遊びを味わい直すことにつながり、場面を変えて振り返ることになる。

◎一人ひとりの子どもが何をしがっているのか?どんな興味があるのか?丁寧に見ていく必要がある。遊びを見つけていく子にどう関わっていくか?も課題。

◎遊びと生活(意図性が強いものは子どもの育ちの両輪でないといけない。生活習慣を主体的に身につけていくことも大事である。

ドキュメンテーション研修



保育者が主体的に研修に参加し、保育を語り合うことが質の向上につながる! 園内だけでなく、園の枠を超えて学び合うことが大事!

参加者の皆さんに掲示してあるドキュメンテーションを見て、感じたことを付箋に書いて貼ってもらい、北野先生に指導いただく形で研修を実施しました。カンファレンスが長引いたこともあり、付箋はたくさんは貼れませんでした。先生同士が保育やドキュメンテーションについて語り合う姿も見られ、少しずつですが、参加者自身が主体的に参加する雰囲気ができてきました。

初めて書かれた先生、悩みながら書いている先生...それぞれ迷い悩みながら保育をすすめておられることもわかり、参加者自身が研修を通じて他の参加者からも学ぶ機会になってきています。

北野先生からも、自分たちでドキュメンテーションや保育を見合いながら、保育を語り合うことが質の向上につながることも助言もいただいております。今後も参加者自身が考え、学べる研修にしていきたいと思っております。

日本保育学会 課題研究委員会委員より

「舞鶴にもこうして幸せな子どもたちがいることがわかり、うれしく感じた。保育の質の向上研修事業をされる中で、子どもを主体とした保育が広がっていくことを期待したい。このように、公私や園種の枠を超えて学び合う公開保育や研修が、広がっていくように舞鶴からもどんどん発信してほしい。」との感想をいただきました。

次回、課題研究委員会委員視察にかかわる公開保育は、11月11日(水) 東山保育園で実施します。

